

## 年のはじめに、3年生に向けて

1月4日、仕事始めの日、今年始めて学校に来ると、たくさんの、校長宛ての年賀状が届いていた。それは大学あるいは、予備校など業者からのものであり、決して私への私信ではない。その中であって、学校住所も私の名も手書きされた一枚が目にとまった。3年生生徒からの年賀状である。「卒業までの短い時間を大切に、お世話になった学校に恩返しをします。」という文が心に沁みだ。日頃から素敵な笑顔で爽やかな挨拶をおくってくれる生徒である。部活動に熱心に勤しみ、自分自身をしっかりと高めてきた生徒だと思っている。「学校に恩返し」という言葉、恐縮であり、ありがたい。いただいた年賀状は、ずっと残しておきたい宝物である。

センター試験を前にして、3年生の欠席が通常より多い。勿論、どんな時にも高校生には高校生としてあるべき姿を求め、導くのが私たちの勤めだ。だから、体調が悪いなどの正当な理由がないのなら、センター試験前だからといって認めることなどできない。でも一方で、センター試験受けるのは勿論はじめてで、緊張もすれば、何だか落ち着かない気持ちにもなるだろう。はたして自分ならどうなのかなと思うと、厳しいことばかりは言えない気持ちもどこかにある。

高校3年間をまっとうするというのは、実はとても難しいことなのだと常々考えている。学校に行きたいのにどうしても行けない、行けば楽しいのだが何とは無しに行きたくないと思うことがある、というのは、程度の差こそあれ多くの高校生が経験しているのではないかと考えている。

でもね、気持ちを奮い立たせることって大事なことはないかな。センター試験、入試、そんなことと思うと、いや、思おうとしなくとも、意識にいつもあり緊張するのがこの時期の3年生。だから、こんなときこそ、普段どおりに行動することを心掛けることが大切だ。いつもどおりに朝早く起きて、当たり前前に学校に行き、勉強して、友達と語り、情報を交換する。先生のところに質問に行くのもよい。そのことで、集中力、柔軟さともに活性化されるのではないだろうか。この「校長室から18」を3年生がいつ読むのか、生徒によってはずいぶんあとになって読むことになるかもしれないが、授業終了までの2週間、あとで自分に恥じることなどのないよう、きちんと学校生活を送ってほしいと心から願っている。

さて明日、明後日は大学入試センター試験である。昨年1月の「校長室から7」では、*You can do it.* とエールを送った。これは今年も変わらない。そのときも書いたのだが、英和辞典に *Good luck on the entrance exam tomorrow!* という用例もある。*Good luck* という語には何だか運を天に任ず、という印象を抱いてしまうため、それを嫌って昨年は避けたのだが、努力の先の運ならば、それも味方にしたものだ。今年は *Good luck* も加えよう。これまでの努力に自信を持ち、仲間とともに夢の実現に向かっていることを心に秘めてセンター試験に臨もう。

何人もの人から言われていることとは思いますが、こうと思ったら迷わずマーク、できない問題は気にせず次の問題へ、終了時刻まで粘ってみよう、マークミスだけは絶対しない。*You can do it.* 会場は君のために用意された所、何も臆することはない。怯むことなく堂々と。*Good luck!!*

## バスケットボール

10日、北久里浜にある湘南学院高校で、バスケットボール新人大会県大会があった。バスケットボールの男子県大会出場は数年ぶりとのこと。試合は負けた。身長だけで語るスポーツではないにせよ、相手はガードでも光陵スタート5人の誰よりも大きく、センターは190センチありながらボールを運ぶこともできる選手。この厳しい条件のもと、光陵は、はじめのうちこそたじろぐ場面があったが、実に果敢に攻め、走り負けることなくディフェンスをしていた。40分間、光陵バスケット部は堂々とフェアプレーに徹し、春に繋がるものを得たことと思う。勝敗を言うなら、部員の皆さんは残念であったろうが、応援する者として、実に清々しいプレーに終始していたことに大きな感動をいただいた、そのような県大会であった。 ナイスゲーム。